

社団法人日本クラフトデザイン協会

事業評価委員会 議事録（親と子のふれあい交流活動）

日 時：平成 25 年 3 月 23 日（土） 15:00～17:00

※第3回定例理事会の議題として審議された

場 所：酪農会館会議室 A （東京都渋谷区代々木 1-37-20）

出席者：（平成 24 年度理事）相川繁隆 岡本昌子 西川雅典 石原実 関根正文 露木清勝  
長谷川武雄 堀内雅博 水野誠子

（平成 24 年度監事）木全 本

（平成 25 年度新任理事候補）林範親 海野えり子 栗原くみこ

●実施内容について

- ・担当理事から事業について報告がなされた。

今年度は「植物」をテーマとした。身近に成育する植物と人の暮らし、先人の知恵や工夫についてワークショップとレクチャーを通じて感じてもらうことを目的とした。

■夏期：「ワラやツルでつくる私だけのタカラモノ」平成24年8月24日（金）

会場：新丸ビル10F「エコツェリア」

参加人数：午前の部 15組 午後の部 5組 延べ40名

■冬期：「稲ワラのお正月飾り」平成24年12月25日（火）

会場：丸ビル8F コンファレンススクエアroom4

参加人数：午前の部 7組 午後の部 11組 延べ36名

■第52回日本クラフト展に於いて制作品の展示とワークショップ映像の放映

平成24年12月26日（木）～平成24年12月31日（月）

会 場：丸ビルホール 第52回日本クラフト展会場 ホワイエ

- ・夏期、冬期のワークショップ共に平成23年度事業同様にテキストの作成を行った。

内容は工程のみではなく、レクチャーのお話と関連性を持たせながら資料的な意味合いの強いものとした。参加親子に配布し、またそれ以外にも関係した機関などには資料の送付を行った。事業実施後も親子の話題を継続させるツールとして有効であった。

●事業実施の準備体制について

- ・実行の準備と実施については会員による実行委員会を組織し行った。
- ・冬に実施したお正月飾りについては、その作り方一つひとつに理由があり、そのため事前の準備や調査に労力を要したが、積極的な対応によって実施することができた。
- ・今後は事業実施前に親や子供達に何を伝えるか、を更に明確にしてプログラム作成を行うよう意見があった。

### ●告知・募集の方法について

- ・冬期はインフルエンザ等の流行により当日のキャンセルが多数出た。やむ追えない事情ではあるが、今後はそれを見越した人数の募集体制を検討する必要がある。
- ・募集に際し、東京都内を中心に関東の公立小学校と私立小学校にチラシを配布した。教育委員会を通じての協力が区により様々であり、その対応に苦慮した。学校への広報が効果大であるが、今後はそれ以外の場所、方法の検討が必要である。

### ●今後の展開について

- ・今後も素材を変えて魅力を発信していくことが望ましい。また同素材でも工法等の違いを活かし様々な展開が可能である。
- ・教育委員会やその他公的機関、民間企業などとの連携を探ってはどうか。計画段階から一緒に進めていくことも視野に検討してほしい。
- ・日常経験することのできない体験や、親の世代も実体験のない時代の昔のお話は反響が高かった。今のように便利さは無いながらも工夫を重ねた生活を、子供に是非聞かせたいという親が多かった。今後も参加者の意見を参考にプログラムを組み立てていく。

### ●目的の達成について

- ・夏、冬共に参加人数は目標を下回った。原因は事前広報の方法が要因の一つと考えられる。情報提供先の調査も含めて事前準備の更なる充実を目指したい。
- ・参加者は一同に満足度が高く、ワークショップを通じて天然素材の多いクラフトに親しみ、またそれをきっかけに親子の対話を深めていく当初の目的は達成されたものと考えられる。また、前年度から継続して参加する親子もあり、徐々にではあるが事業の定着化が見えてきている。
- ・年間の成果を一日平均 1300 人が訪れた日本クラフト展に展示したことは非常に大きな効果があった。クラフトに関心のある各層の来場者にこの取り組みを紹介することができたことは、今後の各地のデザイン活動に波及していく可能性を秘めている。

以上